



性交の初経験が低年齢化するとともに、若年者の妊娠や人工妊娠中絶が危惧されています。今回は避妊を考えてみましょう。きちんとした避妊を理解するためには、どのように妊娠が成り立つかを考えると、よく理解できます。妊娠が成り立つまでのステップごとに考えてみます。

普通、精液は膣の中に入ります。Ⅱ図。精液の中にある精子は子宮と卵管を自力で泳ぎ上がって、1時間程度で卵管の先端に達します。卵管の先端で、卵巣からタイミングよく排卵された新鮮な卵と精子が出合い合体します。これを受精といいます。

受精卵は自力では移動することができず卵管の運動によって、1週間かけて子宮の中

避妊の方法



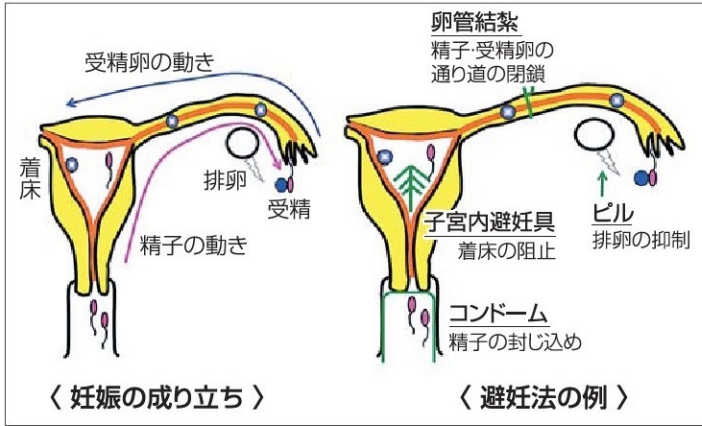
産婦人科医

今井篤志氏

に運ばれます。受精卵はこの1週間の間に、細胞分裂を繰り返しながら子宮内にどっぴりと腰を下ろします。これを着床と言います。着床が妊娠の成立です。この一連のいずれのステップが障害されても妊娠しませんし、逆にいずれかのステップを阻害すると避妊できます。

精子が精液に紛れ込まないようにするのが、精管結紮(パイプカット)です。精液は前立腺などからの分泌物ですから、精管結紮したからといって精液の量はほとんど変わりません。性感も変わりません。

妊娠のステップ阻止



精液が膣内に入らないように封じ込めるのが、コンドームです。コンドームは粘膜同士の接触をなくすので、性行為感染症の予防にも役立ちます。膣内に挿入する殺精子剤

や女性用コンドームも精子が子宮内に入らないようにして避妊するものですが、最近の日本の薬局では見かけることがなくなりました。

排卵を無くするのが、ピル(経口避妊薬)です。ピルは飲み忘れさえなければ、ほぼ完璧な排卵抑制、つまり避妊効果を発揮します。副作用もほとんどありません。ところで、排卵がない月経は月経痛がなく、ピルで排卵をなくすと月経困難症が著明に改善されます。今やピルは月経痛対策の第一選択薬ともなっています。

着床を阻止する

経口避妊薬で排卵を抑制

方法が子宮内避妊具(避妊リング)です。つまり、受精が起こっても着床を止め、妊娠に至らない方法です。最近、銅イオンや黄体ホルモンを含ませた子宮内避妊具が使われており、避妊効果をさらに高めています。

無防備な性行為をしてしまったとか、コンドームが破けるなど避妊の失敗が起こった場合に、妊娠を防止する方法が緊急避妊です。最も一般的な方法が、72時間以内に緊急避妊ピルと呼ばれる薬剤を飲むか、120時間以内に黄体ホルモン付加子宮内避妊具を使用するかです。どちらも着床を障害します。また、永久避妊の方法として、卵管を結紮する方法もあります。これは精子や受精卵の通り道である卵管をふさぐ方法です。

紹介したいずれの避妊方法も向き不向きがあります。生殖医療の専門医に相談してください。(松波総合病院腫瘍内分泌センター長、羽島郡笠松町田代)